

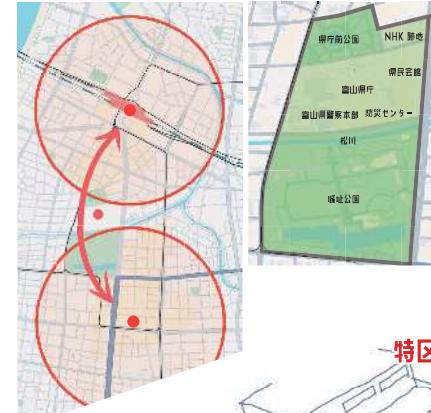
THE FUTURE HISTORY PARK

過去、現在をつなぎ、未来を発信する都市公園

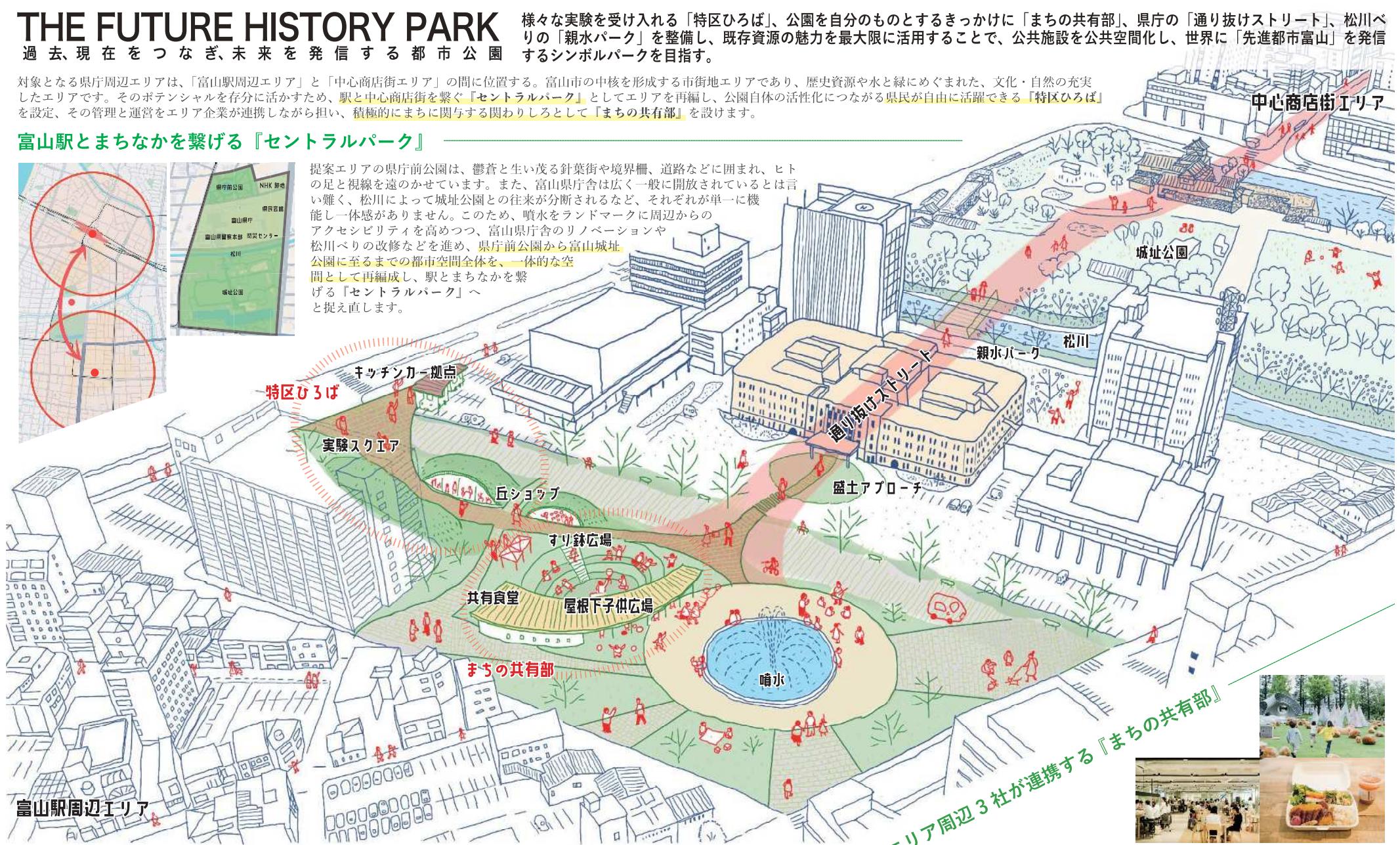
様々な実験を受け入れる「特区ひろば」、公園を自分のものとするきっかけに「まちの共有部」、県庁の「通り抜けストリート」、松川べりの「親水パーク」を整備し、既存資源の魅力を最大限に活用することで、公共施設を公共空間化し、世界に「先進都市富山」を発信するシンボルパークを目指す。

対象となる県庁周辺エリアは、「富山駅周辺エリア」と「中心商店街エリア」の間に位置する。富山市の中核を形成する市街地エリアであり、歴史資源や水と緑にめぐまれた、文化・自然の充実したエリアです。そのポテンシャルを存分に活かすため、駅と中心商店街を繋ぐ『セントラルパーク』としてエリアを再編し、公園自体の活性化につながる県民が自由に活躍できる『特区ひろば』を設定、その管理と運営をエリア企業が連携しながら担い、積極的にまちに関与する関わりしろとして『まちの共有部』を設けます。

富山駅とまちなかを繋げる『セントラルパーク』



提案エリアの県庁前公園は、鬱蒼と生い茂る針葉樹や境界柵、道路などに囲まれ、ヒトの足と視線を遠のかせています。また、富山県庁舎は広く一般に開放されているとは言い難く、松川によって城址公園との往来が分断されるなど、それぞれが単に機能し一体感がありません。そのため、噴水をランドマークに周辺からのアクセスibilityを高めつつ、富山県庁舎のリノベーションや松川べりの改修などを進め、県庁前公園から富山城址公園に至るまでの都市空間全体を、一体的な空間として再編成し、駅とまちなかを繋げる『セントラルパーク』へと捉え直します。



多様なアクティビティを創出する『特区ひろば』



全国各地で公共空間活用が進められていますが、占用物や行為に制約のあるケースも多く、特に、提案エリア周辺のように公共空間の多いエリアは、行政側が積極的にハードルを下げなければ、エリアでの好循環は生まれません。そのため、提案エリア内に、占用条件や消防、保健衛生といった制約を極力排除した『特区ひろば』を設定し、使用にあたっての手続きも簡素化することで、誰もがいつでも多様なアクティビティの表現や実現ができる場とします。

画像引用: Open ALIVE-RALLY PARK / 勿台台公園の建設案 <https://www.openco.jp/wels/850/>

エリア周辺3社が連携する『まちの共有部』



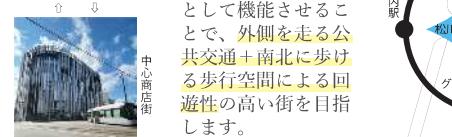
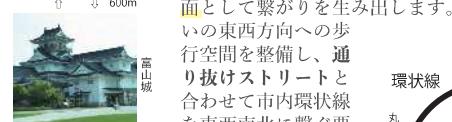
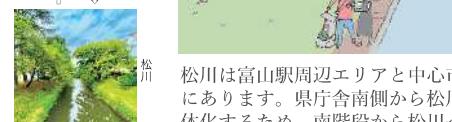
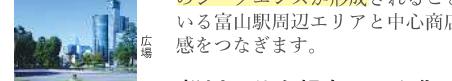
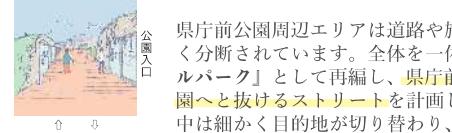
画像引用: (左) Koenji Natsu 隣の社会人に訪問「マッシュホールディングス」2017年6月23日 <https://www.mashholding.org/2017/06/23/>、(右) 美濃島田、ゴールドクインが子ども向けイベント開催中 地、水、火、風、空をテーマに5組の建築家とコラボ 2022年4月30日 <https://www.watanabe-pc.com/article/133085>

提案エリア周辺では、県や市、北日本新聞社などが各々にオフィスや食堂などの機能を保有しています。また、ビジネス街でありながらパソコン1つで気軽に仕事をできる環境がない、雨天時に遊べる子供向け施設がないといった声も多くあり、まちの核としての機能不足が見られます。このため、県・市・北日本新聞社が連携しながら、食堂やワークスペース、全天候型の子供向け施設などを整備するとともに、当該機能を活用した企業間・利用者間交流を促すプログラムを展開する『まちの共有部』づくりを進めていきます。

富山駅とまちなかを繋げる『セントラルパーク』

徒歩移動の限界点“600m”の課題

環境省とともに富山市が実施した調査では、徒歩移動の限界点＝“600mの壁”¹が存在することが分かっています。対象エリアは、富山駅とグランドプラザを起点とした600mの境界に位置し、中心市街地全体で徒歩回遊を促進するための重要なエリアです。



600mの壁を繋ぐ文化と景観の歩行体験

ありたい姿1：幸せあふれるウェルビングな場所へ／ありたい姿2：まちがつながり、一体となる。

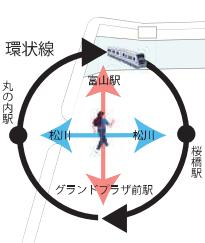
県庁前公園周辺エリアは道路や施設によって細かく分断されています。全体を一體的な『セントラルパーク』として再編し、県庁前公園から城址公園へと抜けるストリートを計画します。パークの中は細かく目的地が切り替わり、ランドスケープのシークエンスが形成されることで、2極化している富山駅周辺エリアと中心商店街エリアの期待感をつなぎます。

松川べりを親水パーク化して懐を広く

ありたい姿1：幸せあふれるウェルビングな場所へ／ありたい姿2：まちがつながり、一体となる。



松川は富山駅周辺エリアと中心市街地エリアの境にあります。県庁南側から松川までの空間を一体化するため、南階段から松川べりを緩やかな斜面として繋ぎを生み出します。同時に、松川沿いの東西方向への歩行空間を整備し、通り抜けストリートと合わせて市内環状線を東西南北に繋ぐ要素として機能させることで、外側を走る公共交通南北に歩ける歩行空間による回遊性の高い街を目指します。



エリア周辺企業が連携する『まちの共有部』



“食べる”と“働く”を兼ねたまちの共有食堂

ありたい姿2：まちがつながり、一体となる。/ありたい姿3：関係人口を増やし、県内全域を活性化させる。

県庁、市役所、北日本新聞社の食堂施設を統合し、平日は周辺企業、休日は来街者のランチ需要を取り込む共有食堂を新設します。会議や打合せで利用できる半個室空間をつくり、ピークタイムはまちのワークスペースとして解放します。周辺エリアで働く職員や会社員が「自慢したくなる・憧れる食堂」を目指し、周辺企業と来街者が食と仕事を通じて交わる空間とします。屋根下子供広場を眺めることもでき、栄養バランスを考えた子供向けメニューを用意することで、親子での利用もしやすい食堂にします。



まちの共有防災拠点

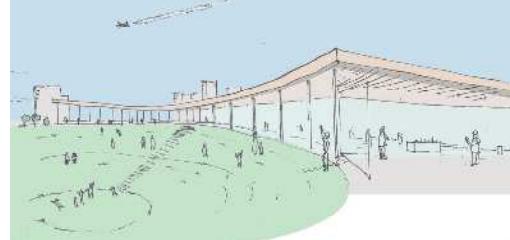
ありたい姿1：幸せあふれるウェルビーイングな場所
災害時に防災の拠点として機能するよう、備蓄倉庫などの設備を確保します。年に1回、特区広場を利用した防災キャンプ、炊き出し体験、非常食体験などを開催することで、エリア全体の防災意識を高めます。

画像引用：(上) Chico Sage. 食事には食の理想が詰まっている。持続食だからできること。vol1. Wellbeing を実現する Yahoo! Japan の社食。
2019年5月25日 <https://www.soshin.com/feature/movement/sashoku yahoo!.page1>
(下) JUST OFFICE,WeWork ウィークリー丸の内北口 2024年8月16日 <https://justoffice.com/buildings/6>

まちの屋根下子供広場

ありたい姿2：まちがつながり、一体となる。/ありたい姿3：関係人口を増やし、県内全域を活性化させる。

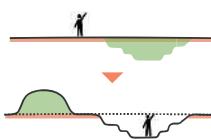
富山は降水日数が多く、冬場は雪が降ります。さらに近年では年間で真夏日が80日を超える、1年を通して外で遊ぶことが難しくなっています。このため、小さな子供を育てるファミリー世帯のために、天候に左右されない半屋外の屋根下子供広場をつくり、インクルーシブな遊具を設置します。広場は食堂に隣接し、テラス席や窓側から子供の様子を眺められます。子供は、両親やエリアの企業、大人が働く姿を見て遊ぶことで、「働く」ことや社会との関わりに関心を持つことが期待できます。



地形がつくりだす、すり鉢広場

ありたい姿1：幸せあふれるウェルビーイングな場所～

周辺に開かれすぎていない安全・安心な場で子供を遊ばせて仕事をしたい、そんな要望にこたえるべく、地面を掘り下げてすり鉢広場をつくります。広場を掘った土は盛土として丘ショッピング形成に活用し、無駄のない計画とします。



“私”と“エリア”をつなぐシンボル

ありたい姿1：幸せあふれるウェルビーイングな場所～

県庁前公園ではなく「噴水公園」の名で親しまれてきたように、公園の噴水はこの場所をイメージするシンボリックなもので、新たなエリアになった後も、誰もがこの場をイメージし、これまでの歴史とこれからの中を繋ぐ象徴として引き続き継承していくことを踏まえ、本提案においては県庁職員・市役所職員・北日本新聞社員のヒアリング等の協力を行なってきました。

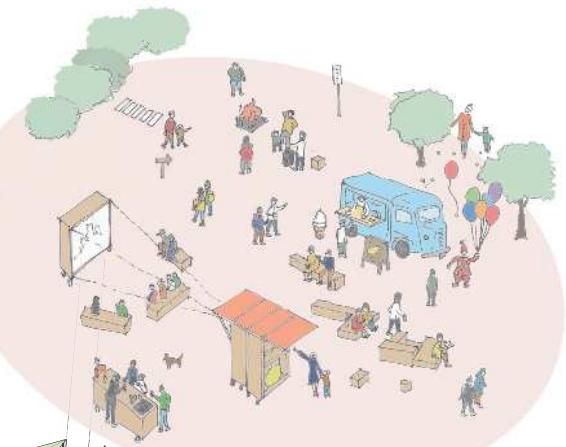
多様なアクティビティを創出する『特区ひろば』

県庁前をまちの特区に設定

ありたい姿2：まちがつながり、一体となる。/ありたい姿3：関係人口を増やし、県内全域を活性化させる。



旧 NHK 跡地から現在の県庁前公園のエリアは一体的な空間としたうえで、国家戦略特区の制度を活用し、通常は都市公園法や道路法などによって制限されていることが自由に実施できる「特区ひろば」を設定します。ストリートファニチャーの設置や焚き火、BBQ、キャンプ、屋台や三輪車での出店、ストリートパフォーマンスなど、試しに何かしたいというアイディアを止めることなくまちへ還元していきます。特に、実験スクエアには電源や水道等の設備を用意し、利用しやすい空間設計を行います。



立ち寄りキッチンカー拠点

ありたい姿2：まちがつながり、一体となる。/ありたい姿3：関係人口を増やし、県内全域を活性化させる。

県民会館駐車場の一部を広場と一体化し、キッチンカーが自由に停車できるスペースとして開放し、エリアに足を向け、留めるきっかけづくりをします。



公園の中の丘ショッピング

ありたい姿2：まちがつながり、一体となる。/ありたい姿3：関係人口を増やし、県内全域を活性化させる。



中心の広場と噴水に向かって、ゆるやかな芝生の丘が広がっています。丘には公園と一体化した食や雑貨などのショッピング棟になっており、ふらっと立ち寄りたくなる気持ちの良い空間が形成されています。ショッピングの広さは近隣の不動産会社へのヒアリングも踏まえ 20 坪程度とし、テナントとして貸し出せる収益部とします。また公園内の古くなつた既存トイレは廃止し、ショッピング棟とともに子育て世帯が安心して利用できるユニバーサルなトイレを新設します。